

# 包埋用シート、消毒剤の影響調査



斜面の上方（写真右）から下方に向かって、捕獲個体A→捕獲個体B→捕獲個体C

捕獲個体名	体長	体重	性別	週齢	シート内側	シート外側
捕獲個体 A	51.1cm	7.0kg	オス	15週	粉末	250倍
捕獲個体 B	52.1cm	8.6kg	メス	22-25週	250倍	250倍
捕獲個体 C	56.3cm	9.1kg	メス	22-25週	粉末	粉末

# 死体へのイノシシの反応事例（198日目）

※ 途中経過のため、事例の一つであることを留意

## 8か月後以前の確認

## 12か月後以降の確認

死体への接近種

イノシシ、アナグマ、タヌキ

イノシシ、タヌキ、アライグマ、アナグマ、カラス類

死体への腐肉食

—

タヌキ、イノシシ、アライグマ  
(10か月目に発生)



### 【確認できた事象の一部】

- 塩素系消毒剤と生分解性シートにより、外部への臭気がほとんどしていなかった

⇒少し匂いを感じた後  
(139日後以降)に

最初はタヌキが腐肉食

※最初期の発見と学習の可能性

- 骨などの分散が起こる



# イノシシ死体へのタヌキの接触(要適正処理)



2024/10/17 12:32:53

# イノシシ死体の適正処理の事例



比較のため埋置処理をしていない（写真手前の個体）ことに注意

木などを入れて金網と包埋した死体の間になるべく隙間をつくる方が良い

できれば包埋した死体の上に、さらに生分解性シートをかける（その場合は、金網からはみ出さないようにする）

包埋した死体は近くの立木などで固定する

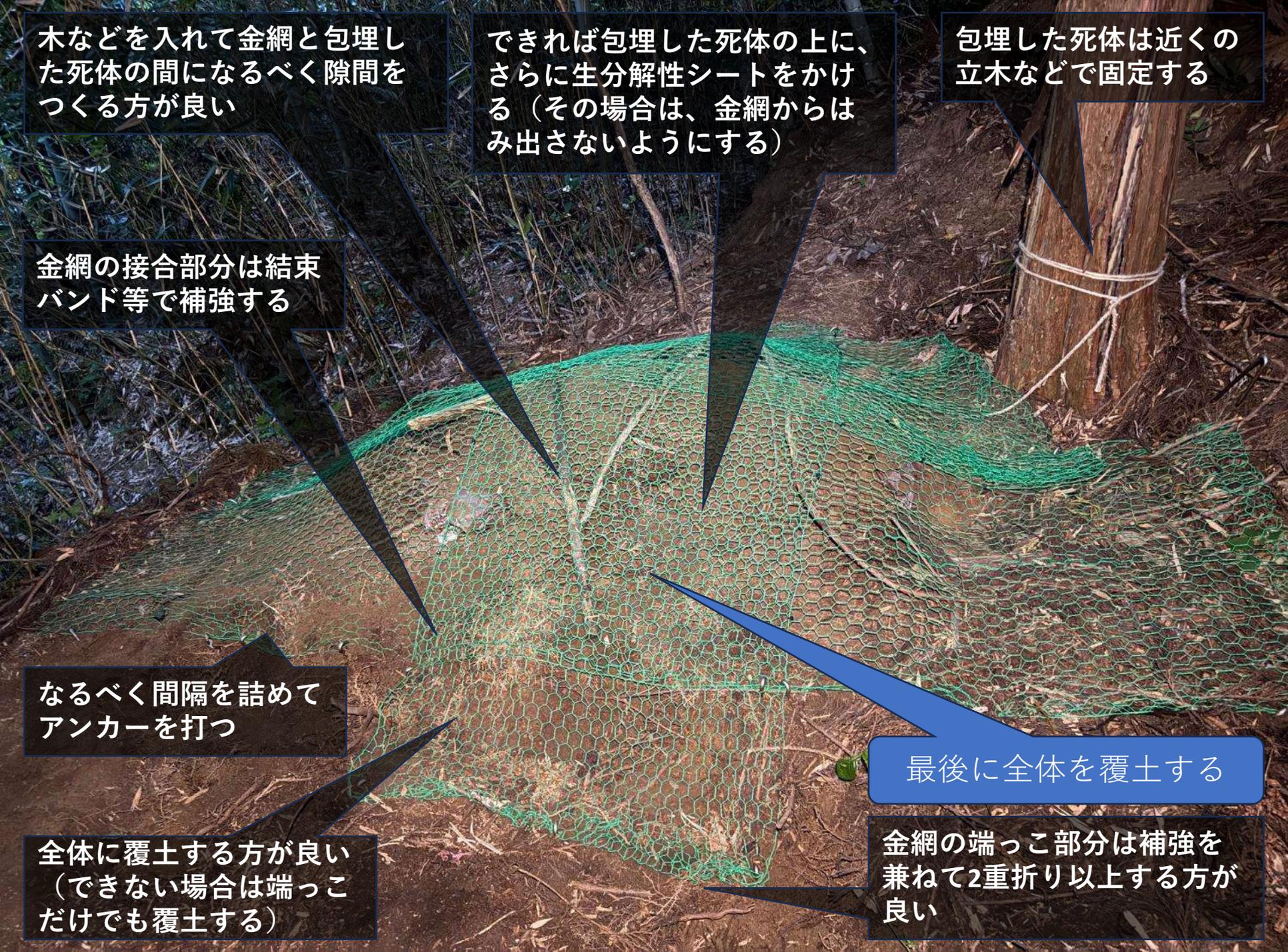
金網の接合部分は結束バンド等で補強する

なるべく間隔を詰めてアンカーを打つ

全体に覆土する方が良い（できない場合は端っこだけでも覆土する）

最後に全体を覆土する

金網の端っこ部分は補強を兼ねて2重折り以上の方が良い



# R6年度までに得られた知見

## ■ 消毒剤および生分解性シートによる臭気の発生や分散の抑制を確認

- ⇒ ・腐敗臭の発生と分散を抑制することでタヌキやイノシシ等による掘起しが抑制されている可能性が示唆された  
・生分解性シートを用いた包埋方法を構築し、簡易な包埋手順を作成

## ■ イノシシ死体へのタヌキの接触と腐肉食、イノシシによる接触と掘起し等を確認

- ⇒イノシシ死体埋置時のリスクと実際の事例の把握

## ■ 電気柵や亀甲金網などによる適正処理の補強方法を実証し、効果を確認

- ⇒ただし、タヌキやイノシシ、カラス類などが接触する事例を確認

## ■ 発酵消毒時のイノシシ死体の変化を確認

- ⇒最長でも4か月程度\*で分解が進行、一部の骨が残存するが臭気は消失  
(生分解性シートの耐久も十分)





立入禁止

2715

八行



# R7年度の実施状況

- 死体埋置についての継続的（中期的）なモニタリングを実施
  - ・ 消毒剤および生分解性シートの変化
  - ・ 埋置した死体の変化
  - ・ 出没する動物種およびその行動の分析
- 特に生分解性シートなどの生分解性素材に代替した資材を用いた死体の適正処理の強化手法の検証を実施

（備考）

- ・ 2つの県に設けた実証地が豚熱陽性個体確認地点から10km圏内に入った

